

オンライン中心での千葉市民活動フェスタ2021 閉幕

■ 2回目となるオンライン中心での開催

今年のテーマは「100の思いを千の未来へ」。今年は従来のように展示や体験・相談・物販そしてステージ発表などができるかと思いましたが、まだまだ状況が好転せず、実行委員会で、今年もオンライン中心での開催という決断がされました。11月7日から12月5日の約1ヵ月という開催期間を経て無事に閉幕を迎えました。



■ 充実のプログラムを展開

開催期間中「千葉市民活動フェスタ2021 特設ウェブサイト」を公開しました。参加各団体の情報を紹介する専用のページを充実して、一日限定のインターネット放送局「ちばさぼTV」を開設。千葉市にゆかりのあるマスコットキャラクター達とYouTubeを活用したライブ放送を行いました。

マスコットキャラクター達による「ポッチャ」対抗戦は、パラスポーツ情報も交えての実況中継でお届けしました。

なお、特設ウェブサイトは再公開しています。「ちばさぼTV」を見逃した方はぜひご覧ください。



<https://chiba-npo.net/festa2021/>

【市民公益活動団体の紹介】11月7日～12月5日

特設ウェブサイト内の参加各団体専用の紹介ページでは、活動の様子や団体のイメージ写真に加え、動画や各団体が所有しているホームページやブログも見られるようにしました。



【資料の配架】開催期間中

ちばさぼでは、特設掲示板を設けて、参加団体の資料を紹介。また11月20日と21日には、きぼーるアトリウムに資料を配架。訪れた人に持ち帰っていただきました。

【団体紹介動画収録会】10月31日・11月6日

フェスタ参加団体に動画収録のサポートプログラムも用意しました。完成した団体の紹介動画は特設ウェブサイトにて公開しています。

【インターネット放送局】11月21日に開局

きぼーるアトリウムに1日限りのインターネット放送局を開設。番組冒頭には神谷俊一市長がライブ出演して下さり、ご挨拶に続いて、ポッチャの始球式も務めていただきました。また交流サロンや市民活動マッチングプログラムなどライブ放送。市民公益活動やボランティア・パラスポーツなどの情報を様々な角度から発信の機会を創れたのではないかと思います。みなさまありがとうございました。



ミニコラム

ちばさぼの風 vol.47

助成金獲得の本当の意義

「助成金」は、市民活動団体の主な資金源の一つです。融資と違って返済不要な助成金は、利益を上げることを中心としない市民活動団体にとっては、貴重な資金源といえるでしょう。ただし、単に条件を満たしているだけでは獲得することはできず、審査を通過しなければなりません。書類だけでなく、プレゼンテーションによる審査が行われることも多くあります。

応募書類の作成やプレゼンにはコツがありますが、それをこのコラムの中で伝授することは難しいので、ここでは助成金獲得の「本当の意義」について述べたいと思います。「資金が得られること以外に何の意義が?」という声が聞こえてきそうですが、以下、2つの段階に分けて記します。

① 応募や審査の段階における意義

「事業(活動)のことをしっかりと考える機会になる」というのが大きな意義です。審査では、事業のことをわかりやすく審査員に伝えなければなりません。応募の前に、提出書類をメンバー以外の第三者にも見てもらうとよいでしょう。また審査会は公開で行われることも多いので、他団体の事業内容や発表方法などから学びが得られるかもしれません。残念ながら不採択になったとして

も、応募や審査の段階で得られるものは多くあります。

② 事業実施中・実施後の意義

晴れて審査に通ると、助成元がHPで団体のことや事業の紹介をしてくれます。自らも、競争を勝ち抜いて採択されたことを、団体のPR材料に使いましょう。そして事業実施中から、成果を次にどうつなげるか、どのように活動を展開していくかを考えることが不可欠です。助成金を使い切ったらまた次もらえばいい、という考えは禁物です。助成金は使うのではなく“活かす”という視点を持つことで、今後の団体の活動に拡がりが出てくるでしょう。

千葉市では、6区それぞれの地域振興課が、「地域活性化支援事業」という助成金の交付団体を毎年募集しています。各区でスケジュールは多少異なりますが、まさに募集中で、応募締切は1月中旬から末日という区が多くなっています。ぜひこの機会に助成金獲得にチャレンジしてみたいかがでしょうか?

詳しくは「●●区地域活性化支援事業」で検索するか、当センターまでお問い合わせください。応募書類作成に関するご相談も、お気軽にどうぞ!(は)